

## クーポンブックやTV番組特集等 20周年記念企画を実施

### 香港政府観光局

香港特別行政区設立20周年を迎え、香港政府観光局では様々な特別企画を実施しています。

現在、香港では、記念のクーポンブックを配布、香港をお得に楽しんで頂けます。また、8月4日～6日には、音楽やグルメを楽しむイベント「eスポーツ&ミュージックフェスティバル」を中環で開催します。

また、日本国内では、テレビ番組での香港の露出をさらに強化しています。4月には、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の協力のもと、人気テレビ番組TBS「ぴったんこカン・カン」で香港特集を放映。2週にわたり、安住紳一郎アナウンサーと大竹しのぶさんはじめ4人が、パンダとの触れ合いやトラムの貸切ツアー等ユニークな体験を紹介しました。さらに、7月にはフジテレビの「おじゃMAP!!」でも香港を特集。香港ディズニーランドや中環・上環のオールド・タウン・セントラル(OTC)の街歩き等を特集、大きな反響を頂きました。

9月末には、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部が主催する「香港ミニチュア展」への協力をします。香港のメモリアルイヤーを盛り上げる企画をぜひお楽しみください。

#### ◆20周年特別クーポンブック「Smart Deals」

香港内のアトラクション、航空会社、公共交通機関などで使えるクーポンを配布中。MTR、スカイ100、オーシャンパーク、香港ディズニーランド、ゴンピンほか21社で割引や特典等を受けることができます。



20周年特別クーポンブック「Smart Deals」

使用期間：2017年10月31日まで（※特典により期間が異なります）

配布場所：香港政府観光局ビジターセンター（香港国際空港、香港島、九龍ほか）、香港内のホテル、旅行会社、アトラクションなど

#### ◆香港ミニチュア展

香港のミニチュア作家が、伝統行事や懐かしい街並みなどを精巧に再現した作品の数々をご覧ください。

開催日：2017年9月29日(金)～10月9日(祝・月)

場 所：東京・丸の内の商業施設「KITTE(キッテ)」

主 催：香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部

後 援：香港政府観光局

2017年8月発行(禁断断転載)

### 目次

クーポンブックやTV番組特集等 20周年記念企画を実施	1
香港の歴史(2) アヘン戦争から近代まで	2
香港学生大使の香港研修	3
香港で考えたこと	4
中国とのビジネスに香港の関わり	5
香港貿易発展局日本首席代表あいさつ ～47都道府県訪問に意欲～	6
連合会・各協会便り	
東 京：女子プロジェクト パウヒニア会「香港気分でBBQ VI in 辰巳の森海浜公園」	
第24回横濱ドラゴンボートレース2017	
「佐藤助さんを偲ぶ会」開催	7
関 西：ダイナミックに発展する香港と日本香港協会	8

中 京：名古屋観光文化情報	9
九 州：インバウンド産業でワーキングホリデーを活用しよう	10
山 形：新会長就任のごあいさつ	
香港総領事松田大使来県 ～再設立セミナー～	11
北海道：「香港ビジネスセミナー」「香港のつどい2017」を開催	12
宮 城：平成29年度通常総会&記念セミナー、懇親会を開催	
「香港及び香港を経由した中国販路開拓セミナー」開催	13
沖 縄：沖縄県アジア経済戦略構想について	14
広 島：香港バイヤー招へい食品商談会・懇親会を実施	15
新 潟：平成29年度 通常総会・懇親会の開催	16
高 知：10月3日は「土佐の日」！香港に高知のグルメの輸出を目指して	17

## 香港の歴史(2) アヘン戦争から近代まで

NPO法人日本香港協会理事長 原田 光夫

1840年5月、英国はインドで編成した東洋艦隊（軍艦19隻、搭載砲500門余、兵員約4,000）をもって中国に向け出航。第1次アヘン戦争勃発。強大な軍事力をもって9カ月後には圧勝の後、広東地方政府と川鼻仮条約締結後香港割譲を迫り、1841年1月25日香港島に上陸、翌日提督プレーマーが英国旗を掲揚して香港領有を宣言した。ジャーディンマセソン商会香港に移転（1841）。このころ広州で最初の反英国運動事件起こる。

一方、清国北京政府はこの仮条約を批准せず結果的には戦闘再開となり、1842年8月29日南京条約締結をもって英国に屈服、香港（現香港島）の割譲が決定した。翌年（1843）ポッティンジャー初代香港総督就任。英国は1856年のアロー号事件を発端に清国を再攻撃する。第2次アヘン戦争に突入、1860年10月24日北京条約をもって香港植民地の付属地として九龍地方の割譲を得た。

1865年香港上海銀行開業。インドでの生産によるアヘンを中心とした貿易は1888年を境に衰退してゆき、本国英国の産業革命での産物である紡績製品の綿を中心とした中国国内市場を開拓、一方香港は造船、海運、金融等の分野で経済的発展をとげ、多くの英国系商社を中心に今日の香港経済の基礎を構築することになる。1894年、日清戦争勃発により清国が弱体化、欧州列強の時代となり英国に代わりフランスやアメリカが上海を拠点に中国進出が顕著となる。英国はこれを危機と判断、1895年孫文らの興中会の広東での蜂起などを経て1898年6月9日「香港境界拡張専門協約」締結により、新界地区の99年間の租借を決定した（1899年英国、新界を武力接収）。英国は完全なる割譲に固執したが、清国は強く抵抗し、結果的に租借となった。

1902年日英同盟。1912年中華民国誕生。辛亥革命、第1次大戦、五四運動等の民族運動などにより香港でも労働運動が多発する中でも植民地経済が続く。第1次世界大戦後の1919年パリ講和会議、1921年ワシントン会



香港西營盤の上陸地点近くの道路の英語名「Possession (占領) Street」に1841年の記憶を留める（写真提供：小柳淳）

議などを経て中国共産党創立。1931年満州事変勃発。以後、

100万人強の難民が中国各地から香港に流入、1941年には路上生活者も含め実質200万人の人口を有していた。上海を中心にした中国資本家の香港逃避も多く、資本、技術により香港の工業化の方向が形成されてゆく。

以来香港は中継貿易から現代に続く加工貿易による経済へ転換していく。1937年7月、日中戦争勃発。1938年日本軍広東を占領。1941年太平洋戦争勃発、真珠湾攻撃と同時に日本軍は香港に侵攻。日本軍の香港奇襲作戦は成功するも英国との必死の攻防が続き、12月18日からの激戦の後25日夜、接収、開設した半島酒店（ペニンシュラホテル）日本軍作戦司令部に於いて英国軍は無条件降伏をし、香港は日本軍の手に落ちた。1941年12月～1945年8月迄の3年8カ月間、香港は日本軍の占領となり、香港住民は苦難の時代を強要された。香港住民は大陸に帰されるなどして約60万人迄に急減したが、大戦直後の1947年中国本土内での国共内戦を避け、再び香港への大量流入があり、1950年には236万人に膨張する。1952年の日本領事館再開までの間、日本人の香港居住は許可されなかった。

中国大陸内では国共内戦後共産社会主義成立をみる。英国政府は中国から香港への越境を制限する為に、1956年入境管理条例発動、香港に流入した中国人は本土帰郷が困難となり香港を「終の住処」として暮らしてゆくことになる。やがて香港出生の人口が5割を超えるまでになり、当然工業化も、基礎教育も進み香港としての都市生活も増加してゆくことになる。

30年後の1984年4月、英国は香港返還を公式発表。ジャーディンマセソン商会が香港からの本拠撤退を発表、鄧小平は香港への人民解放軍駐留を言明、香港の将来は「一国二制度」を強調、英中合意文書仮調印、香港返還決定。同年12月19日、サッチャー首相と趙紫陽首相との間で香港主権に関する「中英共同宣言」がなされた。

1997年7月1日新界地方の99年間の租借期間終了となり香港等を含めて全てが中国に返還され、香港は156年間に及ぶ植民地の終焉をみた。爾来中華人民共和国香港特別行政区として発足し、今年（2017）20年目の節目の年を迎えることになった。

参考文献 香港史地〔第4巻～第6巻〕（香港史学会）、香港歴史探究（三聯書店）、開明香港近代史（香港史学会）、改變香港歴史的60篇文献（中華書局）、香港－移り行く都市国家（中島嶺雄著・時事通信社）

### <香港の人口の推移>

1842年	1860年	1931年	1937年	1941年	1945年	1950年	1956年	2017年
7400人	10万人	85万人	100万人	164万人	60万人	236万人	312万人	743万人



## 香港学生大使の香港研修

香港学生大使 小西 夏香

私達、香港学生大使は3月17日から3月31日まで、「香港杯全日本大学学生大使英語プログラム」の賞品の一つである香港研修に行きまして。今年で9代目となる香港学生大使は、「香港杯全日本大学学生大使英語プログラム」から選抜された4名から成り立ち、今年は“一人でも多くの日本の学生に香港の事を知ってもらう”という目標を掲げ活動を行っています。香港研修では、日本の学生に知ってもらいたい香港について大使全員で考え、約2週間の研修中、香港で働いている方々、起業されている方、また現地の学生との交流を積極的に行いました。

香港研修の最初の3日間と最終日は読売新聞社がツアーを組んで下さり、観光旅行では訪れる事が出来ないようなニューテリトリー、香港貿易発展局、立法会、インベスト香港、PMQ（元警察署家族寮）、そしてキャセイシティ（キャセイパシフィック航空の本社）を見学しました。香港はメディアでネオンの光で包まれた煌びやかな都会、最先端な街として特集されますが、今回のニューテリトリーのツアーで自然の豊かさ、また香港鉄路博物館や許願樹のある林村に行き、香港の人々が新しい物好きではありながらも、歴史や伝統を大切に重んじている光景を見て体感する事が出来、香港の新たな一面を知る事が出来ました。

またビジネスの視点から、香港がどのような立ち位置にいるのかについてレクチャーを受けてきました。香港は人口が約700万人と、日本のおよそ6%というように小さな都市でありながらも、世界中のトッププレイヤーが集結しています。その理由の背景としては、香港が中国の玄関口となっている事と法律や関税の問題で金融企業が集結しやすく、世界中の情報を香港で得る事が出来るという事を、インベスト香港や香港貿易発展局のスタッフの方々から教えて頂く事が出来ました。レクチャー後、街を歩くと、今までは色とりどりの街並みとしてしか見えていなかった街が、名だたる金融企業の看板や、様々な人種の人々がスーツを来て歩いている姿を見て、この都市は世界中の人々から動かされているという事を少し実感出来たように感じました。また最終日にはこの研修を協賛して下さっているキャセイパシ

フィック航空の方々から香港のキャセイシティを案内して下さいました。キャセイシティに入った瞬間、様々な言語や人種の人々が働いている姿を見て、香港は企業内外どちらからも国際的な文化が漂っているという事を知ることが出来ました。

2週間のうち、約10日間は香港中文大学の寮、また現地の学生達と一緒に生活を送っていました。大学側がバディープログラムを作して下さい、8人の中文大学の学生が大学内や学生生活を案内してくれました。彼らは全員9月から日本の大学に交換留学する事が決まっております、皆幼い頃に見たアニメや漫画をきっかけに日本に関心を持ち、今でも引き続き日本語や日本の文化を積極的に学んでいました。中文大学の学生と話して一つ衝撃を受けたのが、大学の約90%以上の学生は短期でも長期でも留学経験があるという事です。バディーの学生の中にも9月からの留学前に中国本土への短期留学や、アメリカ、ヨーロッパに大学のプログラムで留学を経験している学生がいました。現状、日本の学生は積極的に留学に行く事が出来ず、金銭面や支援してくれる人々が少ないなど、学生達が羽を伸ばして海外に留学する事の出来る土台がまだ出来ていないからだと私は思います。香港に国際感覚の豊富な人々が多いというのは、学生の時から世界を視野に入れ、積極的に海外で勉学に励む事が出来る環境が整っているからだとこの事を、改めて今回の中文大学の学生達との交流で知る事が出来ました。

私達香港学生大使は、香港に留学やインターン、旅行などで訪れた経験があり、決して香港初心者ではありませんでした。しかし、今回の香港研修では香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部を始めとするスポンサーの方々のご尽力のお蔭で、今まで見た事なかった新たな香港の一面を学び、体験する事が出来ました。この経験から、やはり何事も“百聞は一見にしかず”だと思いました。“一人でも多くの日本の学生に香港の事を知ってもらう”という目標を達成するためにも、香港に実際足を運んでもらえるよう、微力ではありますが今後も香港の事について積極的に発信していこうと改めて強く思いました。



香港学生大使



香港学生大使と香港中文大学の学生

## 香港で考えたこと

慶應義塾大学名誉教授 山田 辰雄

私はこれまで度々香港を訪れたことがあり、最初に滞在したのは1970年だった。年間を通じて在香港日本総領事館の特別研究員の時であり、岡田晃総領事の時代であった。

この間いろいろなことを学び、経験した。この時の私の一つの重要な研究課題はジョン・S・サーヴィスの延安報告の分析であった。サーヴィスは在華アメリカ大使館の外交官として1944年と1945年に延安の中国共産党支配地区を視察し、膨大な量の報告書を書いた。後にこれらの報告書はAmerasiaという雑誌で公表された。アメリカは太平洋戦争の終結を前にして、中国国内で対立する国民党と共産党とのあるべき関係を模索していた。彼は共産党の支配を直視し、そこに党の支配の正当性と力の基盤を見出そうとしていた。

1971年にはピンポン外交、キッシンジャー大統領補佐官の秘密訪中を通して米中関係改善の流れが顕在化した。しかし、1970年に私は香港にいてすでに米中接近の可能性を感知していた。米中接近の背後にはいくつかの要因があったが、アメリカは当時ベトナム戦争の終結に苦心していた。つまりアメリカは中国の力を利用せずにこの戦争を終わらせることは困難であり、中国共産

党の支配と力を認めざるを得なかった。この米中関係の変化は今日の中国の「台頭」まで続いている。中国の力を取り込まないで今日国際関係を動かすことができないのである。当時香港で私は、かつてサーヴィスが中共支配地区を訪ね、その支配の

正当性と力の源泉を発見したことに思い至った。事実このような歴史的背景のなかで、サーヴィスは米中関係の改善の過程で最初に中国を訪問したアメリカ人の一人であった。

ひるがえって今日の日中関係を考えるとき、日本の現政権は中国の力の台頭を日本の外交政策に取り込むことに現段階では必ずしも成功していない。私は早くからアジア政策において日本が孤立することを指摘してきた。日本はアメリカと結びつき、アセアン諸国と協力することによって中国を孤立させることを試みた。しかしアメリカは中国と対立しつつも対話の回路を保持している。アセアン諸国は日本と協力関係を維持しているが、日本が中国を孤立させようとする限り日本の支持者ではなかった。

この状況を転換することは容易ではない。1972年の日中国交回復に匹敵する大きな政策転換を求められるかもしれない。その根底には日中間の歴史認識を巡る対立が横たわっている。それと同時にわれわれはサーヴィスの時代に彼が見出した、米中接近の時期における中国共産党の支配の正当性と力の基盤を今日的に直視する必要がある。そして中国自体の将来における変化を待たなければならないのである。



(写真提供：小柳淳)

### 飛龍85号の訂正とお詫び

飛龍85号の校正漏れによる誤りがありました。お詫びのうえ訂正いたします。訂正箇所は以下のとおりです。

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 質問1への回答4行目  | (誤) 香港特別行政府→(正) 香港特別行政区政府  |
| 質問1への回答13行目 | (誤) 新潟講演→(正) 新潟公演          |
| 質問2         | (誤) 香港が中国から返還→(正) 香港が中国に返還 |
| 質問2への回答1行目  | (誤) 香港返還後→(正) 香港は返還後       |
| 質問4         | (誤) 円高を利用して→(正) 円安を利用して    |
| 質問6への回答7行目  | (誤) 歌舞伎、芸者、相撲→(正) 歌舞伎や相撲   |
| 質問7への回答3行目  | (誤) 保護法則→(正) 保護法制          |
| 翁颯氏学歴中      | (誤) 香港大学社会学士→(正) 香港大学社会科学士 |

なお、日本香港協会ホームページに訂正済みの飛龍86号を掲載してあります。 <http://www.jhks.gr.jp/kouhou/h85.pdf>



## 中国とのビジネスに香港の関わり

NPO法人日本香港協会会員 清水 嘉莉 KERRY

中国人とビジネスを始めるときにまず「信頼できるだろうか?」と思う日本人は少なくありません。それには言葉の壁が大きくあると思います。英語を得意としない二つの国の人が通訳を介してビジネスをする光景はよく見かけますね。正確な訳で通訳の仕事を全うする人も多くいる中で、ビジネスの機会をうかがう人も実は多くいます。私も10年以上商業通訳者としての経験がありますが、依頼者は通訳者の100%を信じて自分のビジネスを託します。そして、そこには深い信頼が生まれると私は仕事を頂くたびに感じておりました。しかし、その信頼関係を悪用してしまう通訳者もたくさんいます。

これは実際にあった話です。広州交易会に毎年同じ通訳者に同行してもらっていたTさん、3年目の時にその通訳者が中国に工場を設立しないかと話を持ち出してきたのです。ちょうどTさんも中国に拠点を作り、より安定した商品供給ができるように整備したいと思っていたところだったと言います。そして、工場設立に1,000万円を投じその通訳者には工場長として給料を支払い管理してもらっていました。工場は順調に進み生産も安定してきた2年目のこと、Tさんは検品で工場に訪れた時、商品原価を水増しして報告されていたことに気が付いてしまったのです。それからは、工場の収支、原価を精査し分かったのは、数百万円もの水増し請求をされていたこと。そして、最後はその人にすべてを持ち逃げされて大変な状態で私の所に相談にいらっしました。

私はシャンデリアや装飾照明の特注制作する会社を経営しており、中国に自社工場もありますが、提携工場数社とも契約しております。年に4、5回香港経由で中国に行きます。私自身は言葉が話せるので、コミュニケーションは取れていると思いますが、母語ではない北京語を話すときはかなり疲れてしまいます。時にはニュアンスが伝わらず、希望の商品ができてこなかったことがあります。



クリニックサロンに設置した装飾照明

そんな中で時に中国ビジネスについての相談を受けることがあります。私からのアドバイスは「中国人のおいしい話は絶対信じてはいけません。また、個人的な付き合いで仕事を頼むのもおすすめしませ

ん」とお答えしております。私の個人的な偏見かもしれませんが、「大丈夫!大丈夫!」「出来る!出来る」を即答する人ほど信用できないと感じています。しかし、最近の中国も少し変わってきたような気がします。中国人に良い商品を出そうとする姿勢が見られるようになったと思います。一言でいうと「ごまかしをしなくなった」と私は中国メーカーと取引をするうえで感じております。

また、日本人の注文は「量が少ない上、高品質を要求する」と今までなら面倒がられ相手にされなかったのですが、近年は「日本人の仕事ができれば世界で認められる」と言ったような今までにない考えの工場が増えてきたように思います。とは言っても、直接工場とのコンタクトはハードルが高いですね。そこで香港には貿易会社が多くあります。クライアントの代わりに生産工場を探し、交渉～検品、輸入の手配まで一貫したサービスを行っている会社があります。やはり香港人が経営する会社が間に入ることで、ある程度の安心と保証が得られると私は思います。日本企業を相手にしている会社は日本語を話すスタッフがいても多く、細かいニュアンスが誤解無く伝わることで仕事のダメージが少なくなると思います。せっかく安く商品が入ってきても50%不良では意味がありませんよね。私もそういった仲介業者に仕事を頼むことがあります。検品に行けないタイミングの時はお願いします。各工場に行ってもらい写真で報告をしてもらうことで、出荷前の確認ができます。今はメールやWeChatなどがあり香港・中国とのやり取りが便利になりました。そして、何よりも納期に間に合うように工場にコンタクトを取ってもらうこともできます。まあ、最近では中国工場も納期を守る様になってきたので、不安要素が少しは軽減していますが……(笑)

コストはサービスの範囲によって様々ですが、工場に注文した商品単価の10%が相場ではないでしょうか?

これから、中国工場を新規開拓されるご予定がありましたら、ぜひ香港の仲介業者を利用するとよいでしょう。また、もしあなたが何年も中国に行っていないのならぜひ、久しぶりに足を延ばしてみてください。町や人に大きな変化を感じることでしょう。そして、物価の高騰にもビックリすることでしょう。

現在両方の国を行ったり来たりしていますが、中国での仕事しやすくなったのは間違いありません。どこに行ってもWi-Fiがあるし、トイレは清潔だし、取引先をしっかりと吟味すれば長いお付き合いができそうなメーカーはいくらでもあります。

ぜひ、移り変わって行く中国を自分の目や足で確かめてみませんか?

## 香港貿易發展局日本首席代表あいさつ ～47都道府県訪問に意欲～

今年5月28日付けで香港貿易發展局日本首席代表に就任いたしました朱耀昌（サイラス・チュー）と申します。日本香港協会の皆さまに謹んでごあいさつを申し上げます。

日本香港協会は現在、日本全国に11協会のネットワークがあるとうかがっています。わたくしは日本に赴任するまでの5年間、台湾代表として台北に駐在しておりました。台湾での在任中の2014年には、「香港ビジネス協会世界連盟」の台湾における協会として、「台北市香港商業協会」を立ち上げ、常務理事に就任いたしました。日本香港協会からは毎年、国・地域別で最多のメンバーの皆さまが香港フォーラムに参加されます。これを知ったわたくしは、台湾にもぜひ同じようなネットワークを構築したいと強く願っておりました。

わたくしは日本香港協会の会員の皆さま一人一人は、いわば「香港広報大使」に相当する方々だと思っております。日本の協会は、早くも1980年代末に発足し、協会によっては既に30年近い歴史を有しています。こうした長年にわたる香港と日本の交流が、両地域のビジネスや貿易の促進に多大な貢献を果たしていることは間違いありません。ですからわたくしは、1日も早く皆さまに直接お目にかかり、感謝の気持ちをお伝えするとともに、これからのさらなる発展に向けた取り組みについて貴重なご意見をうかがいたいと考えております。

6月に香港貿易發展局の世界各地の拠点長が集まって事業計画を討議する大規模な会議が行われました。この中で、2018年秋に日本で大規模なプロモーション事業「think GLOBAL, think HONG KONG（国際化へのパートナー：香港）」を開催することが正式に決まりました。過去、日本においては、2012年5月15日に東京、同月17日に大阪で、同様のプロモーション事業を行いました。今回はそれ以来の大規模な日本でのイベントとなりますので、皆さまのご支援とご協力を切に願う次第でございます。

わたくしは実は、いまこのタイミングで日本での職務を拝命したことを非常に幸運だと感じております。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を期に、国際社会における日本の注目度が、飛躍的に増すことは確実です。日本が世界に誇る産業資源は多岐にわたりますが、なかでもわたくしが注目しているのが、日本の高度な科学技術です。また、ファッション、音楽、映画、ドラマ、アニメ、マンガなどといったデザイン・コンテンツ分野にも、ビジネスの潜在性を強く感じます。

実はわたくしと同世代の香港人は、子供の頃から日本のテレビやマンガを見て育ちました。毎年大みそかの『NHK紅白歌合戦』は、子ども心にも実にわくわくさせられる一大イベントでした。1980年代から90年代にかけて香港で流れていた歌謡曲の多くは、日本のポップス

の広東語カバー曲でした。ですから、日本のコンテンツが現在、世界中で受容されるようになってきていることに、心から喜びを覚えます。

もう一つ、特に印象に残っているのは、昨夏のリオデジャネイロ五輪の閉幕式で安倍総理が

扮した「アベマリオ」です。生真面目で几帳面で無口、冗談にニコリとも反応しないという欧米諸国などでのステレオタイプの日本人像を打ち破る秀逸な演出を見た時、わたくしは2020年に向けて日本がさらなる発展を遂げることを確信いたしました。

わたくしは今からちょうど20年前、香港が中国に返還された1997年に香港貿易發展局に入局いたしました。その後は北京、上海、広州の各事務所での業務に従事し、香港本局に戻ってからは総裁秘書室主任を務めました。総裁秘書室に勤務していた当時、総裁がわたくしに一冊の本を贈ってくださいました。その本は『100 Ways to Motivate Yourself : Change Your Life Forever』（邦訳は『あなたの夢が現実になる小さな100のステップ』という題でPHP研究所から1999年に発行）でした。わたくしは特に海外拠点で責任者を務めるようになって以降、多くの物事を自分自身で考え、行動し、無から有を生み出さなくてはならない場面に直面しました。そうした際に、一つのアイデアや青写真をいかに整理、構造化し、自分が管理するチームのメンバーを目標実現へと導くかにおいて、本書から多大なる気づきを得ることができました。

わたくしは常に「目標は高く」ということを自分自身に言い聞かせています。ですから、事を成すに際して、まずはできないできないといった当初の見通しの如何にかかわらず、「夢と勇気を持って一切の制限を設けず自由に発想する」ということを重視しています。最初から間違いなく実現可能な低い目標を設定してしまうと、チーム全員にかかる負荷は小さくて済みますが、そこから生み出される収穫も、とても少なくなってしまうものです。ですから、わたくしは、まず何より自分自身に越えがたいハードルを立て、そこを飛び越えようともがき苦しむ過程の中から、最大限の成果を引き出すことが、リーダーとしての役目であると思っています。







## NPO 法人日本香港協会

## 女子プロジェクト バウヒニア会「香港気分でBBQ VI in 辰巳の森海浜公園」

爽やかな4月の連休前最後の日曜日、恒例の香港式BBQの会を開催しました。

いつもながら、香港から取り寄せた長いBBQ串、蜂蜜、焼肉醬、叉燒醬、XO醬、クラッカー、巨大なマシュマロと、東京で手に入る材料を組み合わせることができる限り香港式になるよう、工夫をこらしました。

参加者は日本人、香港人、大陸出身の中国人、台湾人などさまざま。一人で参加する人、カップルで参加する人、友達を誘って参加する人、家族連れで参加する人、年齢も0歳児から80歳位までと幅広いのに、なんとなく一つのファミリーみたいになったりと楽しい雰囲気につつまれました。楽しみ方も、手羽先を長い串で焼きながら、広東語で会話するグループ、日本語で盛り上がるグループ、網焼きでガッツリ食べるグループとそれぞれに、話す、食べる、飲むを楽しんだ日曜の午後でした。

秋にも香港式BBQの会を催す予定ですので、身近に、日本ではなかなかお友達ができないとお悩みの香港人がいらっしゃいましたら、ぜひ一緒にご参加ください。



デザートは焼きマシュマロをパンにのせて

## 第24回横濱ドラゴンボートレース2017

今年で第24回を迎えた横濱ドラゴンボートレース2017に「飛龍」「飲茶」の両チーム46名で参戦いたしました。

参加者はそれぞれバウヒニアの花の色に似たピンクのオリジナルTシャツに、「飛龍」はブルーの、「飲茶」はピンクの揃いのバンドナという気合の入ったいでちです。まあ、他の常連チームのマイライフジャケット、マイパドル、マイ筋肉の方々に成績は較ぶべくもありませんが、姿だけは一人前です。もちろん、参加者は日本香港協会らしく、香港人、日本人、大陸出身中国人、台湾人、欧米人と、居ながらにして香港のような人員構成です。午前中に集合してチーム分け、エア練習、そしてレース出場と慌ただしいのですが、爽やかな海風に吹かれながらのレースは格別なものです。

そして、夜は香港家庭料理の隠れ家レストランで打ち上げ。鹹魚や臘肉、内臓や希少部位を使った料理も並び、まるで香港での食事のようでした。お店からは端午節にちなみ粽のサービスもあり、参加者全員、昼夜ともに充実した一日となりました。打ち上げの席上、来年に向けてドラゴンボートの練習をしたいというメンバーもあらわれました。また、今回初めての試みとして、T



スタートを待つ「飲茶」チーム

シャツ制作に代伊達屋本舗さんをご協賛くださいました。活動に必要な人とお金の双方が揃ってきそうな気配も感じています。来年以降のドラゴンボート活動活性化にご注目ください。

## 「佐藤劭さんを偲ぶ会」開催

去る5月11日急逝された「佐藤劭さんを偲ぶ会」(アジアユースオーケストラ日本事務局、日本香港協会、日本モロッコ協会、日本アルガンオイル協会の4団体共催)が6月12日、東京神田錦町の学士会館にて開催されました。

佐藤さんは、永くアジアユースオーケストラ (AYO) 日本事務局長、日本香港協会理事、日本モロッコ協会監事、及び日本アルガンオイル協会専務理事の要職にありました。音楽を通じてアジアに平和を追求するAYOの崇高な理念とともに永年歩まれた佐藤さん。彼の真摯な人間性に強く心を打たれた人が多く、アジアユースオーケストラ出身のOB、OG有志が奏でる、お好きだったモーツアルト、バッハの名曲が流れる中、各方面から173人の会葬者が参列しました。

今夏開催される香港特別行政区設立20周年記念アジアユースオーケストラ (AYO) 2017日本公演はもとより北京、香港はじめ欧米各国へのワールドツアーの成功に向けて、最後までご尽力されていた佐藤さんに哀惜と追慕の念を禁じ得ません。

心からご冥福をお祈り致します。



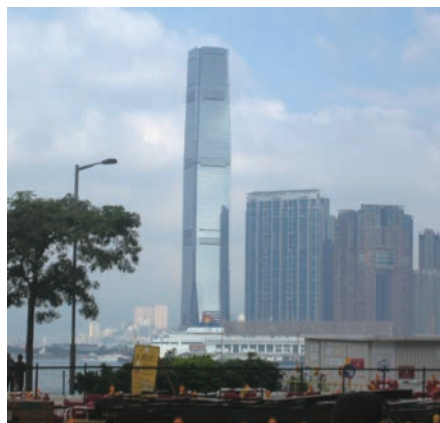
佐藤劭さんを偲ぶ会 (2017.6.12 於：学士会館)



## ダイナミックに発展する香港と日本香港協会

香港で1982年から1987年の5年間銀行の仕事をしたご縁で関西日本香港協会設立当初から協会のお世話をしています。当時は、香港の中国返還交渉が始まる激動の時代で、また、日本の銀行が中国に進出し始めた時期で貴重な経験をしました。12年前から香港フォーラムに毎年参加していますが、香港がダイナミックに発展している姿に感心しています。中国本土が高度経済成長期に入るタイミングを先取りしてランタオ島に閑空の倍の規模の新国際空港を作り、人口増に備えて空港から九龍までの鉄道沿線にたくさんの高層アパートが建設されました。又、貿易の増加に備えてコンテナターミナルが大幅に拡充されて何時も大量の貨物が溢れています。中国本土からの来港者が急増しており昨年は4,278万人が香港に来ていますが、観光客の増加を見越して九龍サイドの旧空港跡地に大型観光船が2隻発着できる栈橋も出来ています。香港とマカオ、中国珠海市とを結ぶ大橋も来年春に完成します。香港では新しいビルがたくさん建てられ、香港島のIFC IIビル（88階建）と世界で4番目に高い九龍サイドのICCタワー（108階建）がその威容を誇っています。香港政府は、都市の再開発とビジネスインフラの整備により“Quality City”にする計画です。香港貿易発展局も年間40件以上のフェアやイベントを開催し、香港と海外とのビジネス交流の促進に注力しています。世の中の変化を敏感に理解し、スピーディーに効率的に対応している香港は、官・民共に賢く将来に備えていると言えるでしょう。

IMD（経営開発国際研究所）が5月31日に発売した「2017年世界競争力年鑑」で香港が2年連続で競争力世界1位になりました。IMDの「世界人材調査」ランキングでも、香港がアジア圏で唯一トップ10に入っています。個人の安全と私有財産の保護、人材の誘致と保持、財務スキル、国際経験、有能な管理職が特に高く評価されています。又、カナダのフレイザー研究所と国際シンクタンクのネットワークが発表した「人間の自由度指



世界で4番目に高い九龍サイドのICCタワー

数」でも香港が世界でもっとも自由な地域に選ばれています。特に、政府の規模、法的権利と財産権、金融の健全性、国際貿易の自由度、規制などのカテゴリーで香港がトップでした。

会社経営に置き換えて言えば、仕事のしやすい職場環境で社員が伸び伸びと仕事して実力を発揮し、経営者はリスク管理とお金の問題にしっかりしており、順調に業績を伸ばしている様子が窺えます。又、香港では女性の活躍が目立ちます。私が係わっている香港のヘッジファンドの営業部門の担当者Executive Directorは女性で、台湾支店の営業員もほとんどが女性です。お金持ちの投資家にとっては女性営業員のほうが好まれるのでしょうか。香港貿易発展局の総裁も女性のマーガレット・フォンさんです。香港フォーラムのような大きな国際イベントを全て女性職員が企画し、2日間の盛り沢山のプログラムを完璧に実施しているのに感心させられました。香港フォーラムのAward審査委員会の委員長を2年間務めました。2名の女性担当者が効率的に委員会を進行してくれて無事役目を果たせたことを感謝しています。能力のある女性を十分に活用し切れていない日本は、未だ潜在的な成長余力が十分あると言えるでしょう。数年前の新聞で、平均的IQ（知能指数）の国際比較で香港が世界1位にランクされたことと報道されたのを記憶しています。香港は人材が豊富です。第一線で活躍している人達には海外留学経験者が多く、幅広い国際的な人脈「華人ネットワーク」と高度な英語力を駆使してインターナショナルスタンダードで仕事をしているのが「香港の活力の源泉」になっていると思います。

香港の人達は香港のPRが上手で、ビジネス環境の変化にスピーディーに対応しています。香港フォーラムのメインテーマも「国際金融都市」「中国とのビジネス拠点」、「国際的資産運用拠点」「アジアのビジネス拠点～香港からアジアへ～」「中国の一带一路構想への対応」とその時々時代の背景に応じたテーマに進化してきました。最近では自信の表れでしょう、「世界が必要としている香港」「スーパーコネクター香港」などと言っており、最近の香港フォーラムではIT化が進む世界の潮流に呼応してIT分野で活躍中の若手経営者や国際的に活躍する女性経営者を積極的に紹介しています。毎年100名以上日本から参加する香港フォーラムは国際的ネットワークである香港ビジネス協会世界連盟が主催する国際イベントです。世界30カ国から毎年400名以上が参加していますが、数年来日本が参加者数第1位で表彰されているのはうれしい限りです。昨年高知に新しい協会が設立され、山形日本香港協会が復活しました。国内11カ所の日本香港協会は、恐らく香港協会の国内拠点数では日本がNo.1でしょう。アジアでも近年香港協会の設立が増えておりうれしい流れです。拡大する日本香港協会の皆さんと楽しく有意義な交流を続けていきたいと考えています。この度永年ご指導いただいた木全千裕会長が退任され、私が会長に就任しました。今後ともよろしくお願い申し上げます。





## 中京日本香港協会 事務局長 佐藤 亮一

## 名古屋観光文化情報

5月の祭日にちなみ埼玉のTVニュースでジャンボ鯉のぼりが日本一と紹介され、条件として風速3メートル以上あれば100メートルの長さの鯉のぼりがたなびくとして話題になった。地域の特徴としてPR貢献大と聞いた。一方、当地区に於いても鯉と龍との相違あるも観光文化として「昇龍道」効果もあり中部地方のPRを世界に発信、特に東南アジアにも従来にない話題が新聞紙面を賑わすようになった。

今回、地元で紹介された香港・中国の話題を報告したい。

まず、最初の紹介は、地元紙（中日新聞）に掲載された香港ナウ『香港人向けの観光ガイド』。香港在住のヨランダ・チャウ氏グループ（香港九龍にて食品貿易関係経営）が愛知限定の海外向けガイドブックが珍しいとしている。香港・台湾の書店で現在、広東語註釈付きにて評価が拡がっていると聞く。小生も取り寄せてみたが220頁に亘りかなり克明に写真掲載された新刊であり香港人にとり桜、紅葉を好み冬はスキーが珍しいと。また、食事部門では「ひつまぶし」「手羽先」など名古屋めし及び観光地としての名古屋城、常滑焼、トヨタ香嵐溪など体験型観光として今後東南アジア方面で話題、来名の一助になろうかと期待されている。

次に、名古屋市が街の魅力や情報発信している「名



「夢」胡永華氏

古屋観光文化交流大使」として、中部圏と香港・中国の交流に力を入れる中国書家胡永華氏が新たに任命され市の委嘱状が授与された。実に、中京日本香港協会と胡氏とは中京パウヒニア会を通じ書道の心、市民レベルでの交流として講演を依頼した経緯があり、写真の「夢」は会として将来性を託す意で書いて戴いた。20年以上の名古屋を拠点とした努力が認められた一人であり、現在、日中書画篆刻交流会会長である。

今回、中京地区関連文化団体の活動の一部を紹介したが、年々香港・中国よりの団体ツアーも増えており「中京パウヒニア会」として地道ではあるが地域の食文化、観光エリア、健康長寿など会員サービスの一環として香港・愛知のPRに努めてゆきたい。5月末には健康体操教室として「姿勢・歩行」の会を専門講師を招聘して実施、特に女性の当協会への賛同者も増やしてゆきたい。これも「夢」の達成への一つである。

## 日本香港協会全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易発展局 東京事務所内  
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会（東京） 電話 (03) 5210-5870  
〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階  
香港貿易発展局内

関西日本香港協会 電話 (06) 4705-7030  
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階  
香港貿易発展局内

中京日本香港協会 電話 (050) 3620-2517  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階 株式会社喜齋内

九州日本香港協会 電話 (092) 451-8610  
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階  
地域企業連合会 九州連携機構内

山形日本香港協会 電話 (023) 665-1310  
〒990-2301 山形市蔵王温泉丈二田752-2  
ユニテ蔵王ジョーニダ・リゾート内

北海道日本香港協会 電話 (011) 261-4288  
〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7 北洋銀行国際部内

宮城日本香港協会 電話 (022) 212-5550  
〒980-8520 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階  
(株)JTB東北本社 営業部内

沖縄日本香港協会 電話 (098) 8686-3758  
〒900-0033 那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内

広島日本香港協会 電話 (082) 248-1400  
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階  
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内

新潟日本香港協会 電話 (025) 365-0001  
〒951-8052 新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地 愛宕商事株式会社内

高知日本香港協会 電話 (088) 856-9112  
〒780-0822 高知市はりまや町1-7-7 川村ビル4階  
株式会社ティーエルホールディングス内

URL <http://www.jhks.gr.jp>



## 福岡県香港事務所 所長 藤木 重尚

### インバウンド産業でワーキングホリデーを活用しよう

#### 1. 香港からのワーキングホリデーについて

昨年10月、香港人に対する日本のワーキングホリデー査証発給枠が、それまでの年間250名から年間1,500名と大幅に拡大された。ワーキングホリデーとは、原則として18歳以上30歳以下の海外の若者に対して、日本の文化や一般的な生活様式を理解する機会を提供するため、日本において最長1年間の休暇と滞在期間中の旅行・滞在資金を補うための就労を認める制度で、香港のほかにも、台湾、韓国など16か国・地域との間で導入されている。

近年福岡県を訪れる香港人観光客は急増していることもあり、ワーキングホリデーの滞在先としても、福岡県に目を向ける香港人が増加する可能性が考えられる。県内の旅館、飲食店、小売店などにおいては、外国人観光客を取り込むための各種方策が実施されているが、本稿ではこうしたインバウンド産業の従事者として、ワーキングホリデーの活用について紹介したい。

#### <香港人観光客の延べ宿泊者数（福岡県）>

年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
人	24,410	35,360	62,110	124,060	253,880	308,850

出典：JNTO香港事務所

#### 2. ワーキングホリデー受入拡大のための取組み

ワーキングホリデー査証（ビザ）で入国した外国人は、「特定活動」の在留資格が付与され、風俗営業などを除き、基本的に自由に就労が認められる。また留学生と異なり、週の就労時間に制限がない（\*1）こと、ワーキングホリデーの本来の目的は観光であり、インバウンド産業での就労に関心が高いこと、比較的日本語能力が高い若者が滞在する（\*2）ことなどから、旅館や飲食店などのインバウンド産業において、貴重な戦力になる可能性を有している。

例えば昨年、ワーキングホリデーで福岡県などに滞在した香港人は、飲食店の評価サイトにおいて外国人から高い



香港人向けセミナーの様子

評価を得ている福岡市内の飲食店に勤務し、香港をはじめとする外国人観光客の対応を行っている。

福岡県香港事務所では、こうしたワーキングホリデー滞在者を福岡県に誘致するため、下記の取組みを実施してきた。

#### (1) 香港人に向けた福岡ワーキングホリデーセミナー

ワーキングホリデーの査証発給時期に合わせて、福岡の観光地紹介に加えて、住居や仕事の探し方、生活費の安さや外国語相談窓口など住環境が整っている点などをPR。

#### (2) 一般社団法人日本ワーキングホリデー協会との連携

ワーキングホリデーでは、観光情報に加えて滞在中の仕事も重要であることから、一般社団法人日本ワーキングホリデー協会と連携。同協会が運営する外国人向け仕事マッチングサイト“Job Board”に、県内企業からの求人を掲載し、香港人ワーキングホリデー滞在者を誘導。

#### (3) 県内企業に対するワーキングホリデーセミナー

本年3月に、九州日本香港協会との共催で、福岡市で香港活用セミナーを開催し、ワーキングホリデー滞在者の活用方法について県内企業、市町村へ提案。

#### 3. ワーキングホリデー受入にあたって

ワーキングホリデーでは、日本文化や生活様式に触れられる仕事を探している若者が多く、インバウンド産業との親和性は高い。また、香港からのワーキングホリデーは、通常の観光と同様に、東京や大阪などの大都市から地方へと関心が移行している。このことから、ホテルや旅館、飲食店、小売店など外国人対応が必要な従来の業種に加えて、都市部以外にあるフルーツ狩り農園など外国人観光客に人気の体験型観光地や、しょう油、みそ、柚子胡椒、日本酒などの食品販売造業、観光案内所などの公共施設における活用が考えられる。

当事務所がワーキングホリデーの活用について情報発信を行ってきた結果、県内の飲食店や食品販売業者、農家などから相談を受けている。相談内容は求人方法をはじめ多岐にわたるが、いずれも現在のインバウンドブームを取り込むための手段として期待されているため、当事務所としても、多くの企業において、その活用が広がるよう今後とも推進していきたい。

注）\*1：留学生は、資格外活動許可を取得したうえで、週28時間を上限に就労が認められる。 \*2：福岡ワーキングホリデーセミナーの参加者アンケートにおいて、23.1%が日常会話以上、56.4%が基礎レベルの日本語を理解と回答。



Job Board トップページ  
<http://www.job-board.info>





## 山形日本香港協会 事務局

## 新会長就任のごあいさつ 山形日本香港協会会長 大沼みずほ

返還20周年を目前に、香港の経済発展はめまぐるしい。香港総領事館で仕事をしてきた10年前と比較

しても年々発展していく香港の活力をなんとか山形と結びつけることはできないか、そんな思いで山形県と香港をつなぐ受け皿を模索していた矢先、山形日本香港協会の存在を知りました。協会の活動は東日本大震災後、仙台-香港の直行便がなくなり、山形への観光客も激減する



中、停滞気味でした。

しかし、政府が観光客4,000万人誘致や農作物2兆円輸出計画を打ち出す中、山形への香港からのインバウンドの強化や農作物輸出促進のために、県商工会議所、商工会連合会、経営者協会、JA山形中央会、観光協会などの関係者が幅広く集まり再設立に至りました。

再設立後には、山形県に在香港日本国総領事館松田邦紀大使をお招きし、山寺、慈恩寺、酒蔵、山形大学医学部などをご視察頂くとともに、講演会を実施し、山形の皆さまにも香港の理解を深めて頂くことができました。本年も「日本秋祭 in 香港」には協会として参加できればと思っています。今後も活発な活動を展開して参りたいと思います。

## 香港総領事松田大使来県～再設立セミナー～

去る3月13日に、山形日本香港協会の再設立記念セミナーということで、山形グランドホテル・サンリヴァホールに於いて、在香港日本国総領事館総領事の松田邦紀大使をお迎えしての「グローバル時代における日本の地方経済」という演題での基調講演を開催し、関係者を含め約100名が参加しました。松田大使からは、①国際化とグローバル化、②香港の基本情報（グローバル化時代における香港の位置付け）、③日本・香港関係、④地方と香港との関係（日本の地方にとっての香港の意義）の可能性とという内容で、聴衆に分かりやすく、重要なビジネスパートナーであることをレクチャーしていただきました。その他に、昨年在香港日本総領事館で主催した「日本秋祭 in 香港-魅力再発見」のイベントにおいて、山形県観光関係者が蔵王や山寺をPRのため香港を訪問されたことについても紹介があり、大変好評だったとの報告もありました。

当協会大沼みずほ会長は、以前に在香港総領事館で数年間仕事をしていることもあり、今回の松田大使来県に尽力されました。

次に、香港貿易発展局東京事務

所次長門田弘蔵氏より「香港市場の最新事情」を細かに説明いただき、香港人の親日度がブーム定着しつつあることで、2016年度4,100人の山形来県香港人インバウンド客は今後、大幅に増加する可能性が高いことを示されたことで、県内経済にとっても大きな期待がもてるものとなりました。

今後につきましては、大沼会長の強力なリーダーシップが発揮され、香港と山形の新時代が開けると確信しております。



松田総領事（大使）の講演



## 北海道日本香港協会

### 「香港ビジネスセミナー」「香港のつどい2017」を開催

北海道日本香港協会は、2月6日(月)に札幌グランドホテルにて「香港ビジネスセミナー」「香港のつどい2017」を開催しました。

今回は「香港の経済動向」、「香港を活用したビジネスの可能性」をテーマに3名の講師にご講演いただきました。今年も香港に関心を持つ会員企業のみならず、中国・アジアに関心を持っている食品関連企業・団体からも参加者が集まりました。

セミナーでは、最初に東亜銀行のチーフエコノミスト Paul Tang氏から香港の最新動向、そしてその優位性をご説明いただきました。続いてサイエスト株式会社の李CEOには、「香港を活用した越境EC攻略」と題したご講演をいただきました。具体的には、中国本土で直接的な越境ECが競争激化している現状を踏まえ、香港大手モールバイヤーを介する越境ECの可能性について解説していただきました。最後に、FENIX GROUP HOLDINGS 荻野会長から豊富な香港でのビジネス経験に基づく、海外進出におけるポイント等について説明していただきました。

セミナーに続いて、12回目となる「香港のつどい」を開催しました。主催者を代表して当協会の横内会長が挨拶した後、香港貿易発展局のスーザン・ラム前日本首席代表にご挨拶をいただき、乾杯のご発声を中華人民共和国駐札幌総領事館の孫振勇総領事より頂戴しました。会の中盤では、「ダンディ・フォー」がミニコンサートを開催し、素晴らしいハーモニーを披露



多くの方にご参加いただいた「香港ビジネスセミナー」

し、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。さらに、毎年人気のラッキードローを今年も開催し、多くの企業様より景品をご提供いただきました。今年の特賞はキャセイパシフィック航空会社様から、「札幌ー香港往復ペア航空券」をご提供いただき、抽選時には、場内が大変盛り上がりしました。

その後も、香港と北海道両関係者の皆さまに親睦を深めていただき、最後は全日本空輸株式会社三宅英夫執行役員北海道支社長（当協会副会長）の締めめの挨拶により、盛況のうちに会を終えることができました。

北海道日本香港協会は、今後これまで以上に北海道と香港の文化・経済交流の発展に向けて、努力してまいります。



「香港のつどい2017」、毎年好評のラッキードローの様子





## 宮城日本香港協会 事務局

## 平成29年度通常総会&amp;記念セミナー、懇親会を開催

5月24日(水)17時半からパレスへいあん7階「シャンテホール」において、平成29年度通常総会&記念セミナーを開催致しました。来賓に宮城県知事代理として宮城県経済商工観光部長吉田祐幸氏にご出席いただき、66名(委任状出席を含む)の出席を得て行われました。小野寺会長挨拶、吉田部長による宮城県知事の祝辞代読の後、議事に入り、大坪代表理事の議事進行により、第1号議案「平成28年度の事業報告及び収支決算報告並びに会計監査について」、第2号議案「平成29年度事業計画(案)及び収支予算(案)について」、第3号議案「役員改選について」について満場一致で可決・承認されました。

続く記念セミナーにおいては、仙台国際空港株式会社の取締役営業推進部長の岡崎克彦氏による「仙台空港民営化まもなく一年・成果と課題」と題した講演がありました。同氏は、豊田通商から平成28年4月に出向、空港民営化に携われました。以来、エアポートセールスはもちろん、空港国際化利用促進協議会をプラットフォームにした地域アライアンスの形成や東北一体の需要喚起と路線誘致、地元交通事業者との連携による二次交通の拡充、さらには観光案内所を中心とした旅客サービスの機能拡充やピア棟増築によるゲート機能増強を手掛けるなど、様々な改革に取り組んできた内容を紹介されました。民営化の取り組みで仙台空港も今後ますます発展す



会長、講師、来賓の方々が記念の一枚に



カントリーダンスのメンバーです



会長の挨拶で開会

ることでしょう。

終了後、5階の「ボヌールホール」に移動しての懇親会、大坪代表理事の挨拶のあと、奥山仙台市長に代わって出席された仙台市経済局産業振興課長白岩靖史氏、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部代表ウィニー・カン氏、香港貿易発展局東京事務所長ジョイス・チャン氏が登壇。香港の素晴らしさ、香港との交流の重要性などを織り交ぜながら挨拶されました。そして、みやぎおかみ会代表佐藤千賀子様の乾杯で幕を開け、懇談となりました。今年のアトラクションは額田弘子先生率いるカントリーダンス、総勢8名のメンバーに会場狭しと踊っていただきました。最後には会場からの参加者も出るなど、ととにもぎやかな懇親会となりました。

## 「香港及び香港を經由した中国販路開拓セミナー」開催

1月16日(月)14時から宮城県自治会館2階会議室に於いて、実践グローバルビジネス講座「香港及び香港を經由した中国販路開拓セミナー」が開催されました。宮城県と日本貿易振興機構(ジェトロ)仙台貿易情報センター等の主催によるセミナーで、約100名の方々が参加。世界有数の貿易拠点「香港」をテーマに、その巨大マーケットの大きな可能性に注目した6人の講師(香港貿易発展局、(独)日本貿易振興機構、(一社)日本海事検定協会、サイエスト(株)、Hopewill Group Japan(株)、三井住友海上火災保険(株))が登壇。「なぜ、今、香港なのか」という問いに対し、各分野の専門家として、香港への輸出動向や市場性など最新事情に加え、検疫証明や販売戦略、バイヤーとの交渉方法等の実務等について講演されました。



香港貿易発展局東京事務所次長門田弘蔵氏による講演



## 沖縄日本香港協会

### 沖縄県アジア経済戦略構想について

沖縄県ではアジアの巨大なマーケットの中心に位置する沖縄県の地理的優位性を生かし、成長著しいアジアの活力を取り込み、経済発展を目的に平成27年9月「沖縄県アジア経済戦略構想」を策定しました。この構想で主要なマーケットとなっているのは、中国・香港・台湾であることは言うまでもありません。

沖縄は、その独自の自然環境、文化、歴史等の魅力により人々を引き付けるソフトパワーを有しており、東アジア及び東南アジアと日本本土の中心部に位置する地理的優位性からアジアと日本を結ぶ戦略的ビジネス拠点としての可能性が高くなっています。

また沖縄県が独自で策定した「沖縄21世紀ビジョン」では「グローバル経済が進展し、世界の経済成長の原動力がアジアにシフトしている状況を踏まえ、移住型産業、魅力ある投資環境を整備し、県内に投資を呼び込む施策、多様な人材、伝統文化、自然、生物資源などの様々な資源を活用した戦略が極めて重要」と掲げられており、沖縄県アジア経済戦略構想は沖縄21世紀ビジョン計画をより具体的にした取り組みが示されています。

国でも「人口減少社会の到来等、国を取り巻く社会情勢が変化中、沖縄はアジア・太平洋地域の玄関口として大きな潜在力を秘めており、日本に広がるフロンティアの一つとなっている。沖縄の持つ潜在力を存分に引き出すことが、日本の再生の原動力にもなり得るものと考えられる」と示されており、この動きを大きく支えるものとなっています。

構想は「モノ・情報・サービスが集まる沖縄」「国内外から企業が集う沖縄」「国内外からひとが集う沖縄」の3つからなっています。

#### ◆モノ・情報・サービスが集まる沖縄

国内外の優れたモノが沖縄に集められ、沖縄の特性を活かした県産品と共に各市場へと届けられる体制を構築する。企業活動に必要なあらゆる情報が国内外から沖縄に集まり研究開発、起業、新産業創出に適したビジネス環境を提供する。更に豊かな自然、歴史、文化など沖縄の強みと健康長寿などの伝統を活かし、世界中のビジネスパーソンや観光客に提供する。

#### ◆国内外から企業が集う沖縄

日本でありながら地理的にアジア諸国と近く、ス

トレスの多い現代社会で癒し効果を与えるリゾートを身近に楽しみ、モノ・情報・サービスが集まれば多くの国内外企業が沖縄のビジネス環境に魅力を感じる。沖縄とアジア太平洋地域のビジネス関係の深化は沖縄の魅力をもっと高め、多くの企業を引きつける。

#### ◆国内外からひとが集う沖縄

モノ・情報・サービスが集まれば企業が集まる。企業が集まれば人の往来も増える。わが国では確実に少子高齢化が進むと同時に人口は減少する。この変化を真正面から捉え、日本の発展の道を切り開いていかなければならない。アジア太平洋地域の成長パワーを取り込み沖縄の活力にすることを旨とする。

沖縄と香港は現在、那覇～香港間が1日3往復・週42便、今年になり石垣～香港間が週5往復となると共に、クルーズ船の入港も増加し、香港・台湾・中国からの外国人観光客も増加「国内外からひとが集う沖縄」は順調に伸びてきています。

しかしながら「モノ・情報・サービスが集まる沖縄」という構想は未だ充分ではなく、香港・台湾を主眼にもっと積極的な施策の展開が望まれています。



「沖縄21世紀ビジョン」ウェブサイトトップページ  
<http://www.pref.okinawa.jp/21vision/>





## 広島日本香港協会事務局 水野 修一

### 香港バイヤー招へい食品商談会・懇親会を実施

平成29年5月23日から25日にかけて、香港バイヤー招へい食品商談会、懇親会を開催しました。(公財)ひろしま産業振興機構と広島県内食品関連企業で構成するアグリ協議会と当協会の三者の連携事業として企画し開催したものです。香港は、他国に比べ輸入規制が少ない上に関税がほとんどないため市場に参入しやすく、日本食ブームに乗って多くの日本食品が輸入されています。

今回は、香港でも有数の日本食品の輸入商社で、日本食レストランも経営している新華日本食品有限公司の蔡紹霞社長に遠路お越しいただきました。蔡社長は約20年間、香港で日本食品の輸入を手掛けており、たびたび日本の生産地を直接訪れ、香港で売れる日本食品を発掘してこられました。最近は特に低カロリーで添加物の少ない健康的な日本食を探求しておられます。

このたび、九龍側の新しくできる駅の近くに、居酒屋や日本の海鮮物を中心に取り扱う大規模なフードコートを開業することもあり、積極的な商談が実現しました。ホテルを会場にした商談会に加え、企業を訪問しての商談も実施しました。

#### ◆ホテルでの商談会

5月24日、リーガロイヤルホテル広島にて商談会を開催し、8社が参加しました。各社がパンフレットや試食品を持参し、プレゼンを行いました。広島産の海産物や柑橘物を素材としたものが多く、独創的な商品や香港の店頭では見ることのできない商品に蔡社長も満足しておられました。

参加された企業からは「このような機会を広島で提供してもらいありがたい」「日本との文化・嗜好の違いも大変参考になった」「香港での商品販売の足掛かりとしたい」など高評価をいただきました。蔡社長もぜひ取引をしたいと意欲を示しており、会員企業の商品が香港の店頭で陳列される日が楽しみです。

#### ◆企業訪問による商談

5月23日および25日、蔡社長が広島市内の企業を2日間で7社訪問し、施設を見学したのち商談を行いました。



ホテルでの商談会の様子



企業訪問での商談、施設見学の様子

初日は香港貿易発展局大阪事務所の伊東所長にも同行いただき、香港ビジネスのヒントになる情報を提供していただきました。

店頭販売の様子や食品の製造工場、生鮮食品の貯蔵設備等を蔡社長は熱心に観察し、さまざまな質問を担当者に投げかけていました。その後の商談でも現場で見た素材や技術、設備について意見が交わされ、活発な商談が行われました。

#### ◆懇親会

5月24日、商談会に続き「蔡社長を囲む会」を開催しました。香港に関心のある県内企業等22名が集まり、蔡社長との懇親や参加者同士での情報交換を行いました。

広島日本香港協会の土井事務局長より、蔡社長が香港で日本食普及に尽力されたことを紹介し、この会が香港へのビジネスチャンスとなることを期待したいと挨拶しました。蔡社長は、近々、香港でフードコートをオープンさせることに触れられ、「フードコートで提供できる食材や小売用の広島産品を探したい」「機会があれば広島フェアも実施してみたい」と述べられました。参加された企業は次々と蔡社長と名刺交換を行い、自社の商品・サービスをアピールするとともに、アドバイスを受けていました。

広島日本香港協会では、今後もこのような香港ビジネスに直結する有益な商談の機会や情報提供に努めていきたいと思っています。



蔡社長を囲む会の様子



## 新潟日本香港協会 事務局

### 平成29年度 通常総会・懇親会の開催



通常総会の様子

新潟日本香港協会では、5月12日(金)16時半より平成29年度通常総会をホテルオークラ新潟の3階「クラウンルーム」にて開催しました。当日は、約35名の会員や来賓の皆様が出席しました。通常総会の冒頭挨拶で吉田至夫会長は、中国市場への進出を図る手段として近年注目されている中国越境ECの必要性と今後、県などと連携してセミナー開催や情報発信を行っていきたくいと述べられました。総会は、田中湖雄事務局長の議事進行により、平成28年度事業報告・収支決算報告および監査報告、平成29年度事業計画・収支予算の4議案と役員人事報告について説明がなされ、全議案が満場一致で可決・承認されました。

当協会では、当初、総会開催前に会員限定の新潟市レストランバスツアーを実施する予定でしたが、様々な事情により中止となってしまいました。改めまして、お申込みをいただきました皆様にはお詫び申し上げますとともに、今後は更に皆様に参加したくなるような会員交流イベントを企画して参りたいと思いますのでご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

総会後は会場を5階「メイフェア」へ移し、吉田会長の開会挨拶で懇親会の幕を開けました。来賓挨拶では、香港貿易発展局・東京事務所所長のジョイス・チャン氏と新潟県知事政策局国際課・国際企画監の川上

克也氏よりご挨拶をいただきました。香港出身のジョイス・チャン氏からは、「新潟の美味しい食べ物と美しい自然に魅了され、この半年で2回も訪問した。新潟日本香港協会は香港に関する様々な活動のきっかけ作りをしてきており、更なる今後の発展を期待している。」と激励の言葉をいただきました。長谷川宏志副会長の乾杯発声で懇親会がスタートし、参加者の皆さんは美味しい料理を召し上がりながらしばらく歓談を楽しみ、大いに盛り上がりました。最後は、仙石正和副会長に中締めのご挨拶をして頂き、全員で1本締めを行い終了しました。なお、この場をお借りして、お忙しい中、当協会の総会にご参加いただいた皆様には、改めて厚く御礼を申し上げます。



懇親会の様子



ジョイス・チャン所長を囲んで





## 高知日本香港協会

## 10月3日は“土佐の日”！香港に高知のグルメの輸出を目指して

“高知日本香港協会”という名前を目にして、飛龍の読者の皆様は、「高知ってどういうところ？」と思われる方も非常に多いでしょう。“南国土佐”といわれるように、温暖な気候の高知は、一次産業（農林水産業）が全国と比べてみてもとても活性化をしている地域で、食材の宝庫ともいわれています。春夏秋冬で採れる食材は幅広く、海洋に恵まれているほか、畜産にも力が入ってきていて、土佐赤牛という赤身のブランド牛も全国で人気が出てきています。

その代表的な食べ物といえば……やっぱり！ なんとと言っても「鰹のタタキ」。本場は藁で表面だけをさっと炙り、かおりをつけて香ばしくします。本当はにおいもまったくないプリプリとした歯ごたえで、生でも食べることができる鰹を、約1分間、藁の香ばしいかおりをつける、火を通しすぎると鮮度が悪いと見られますし、余計な味付けをすると味が悪いと思われます。そのため、食べるときは塩を少々。それだけで本当に十分なくらい美味しい味なのです。

最近では、大型船も停泊ができるように整備された高知新港に、貿易利用のみならず、世界中から大型客船、大型クルーズ船が頻繁に寄港するようになってきました。そのおかげで、これまでは街であまり見かけなかった海外からの観光客も増加傾向にあるようで、高知市内の中心部にも海外の方が出入りをし、地元商店でお土産を購入されるような姿を見る機会もだんだんと増えてきました。そのおかげさまで、街にも活気が戻ってきています。そして、海外からの観光客を案内するためのボランティアも増えてきています。先日は、海外からマスコミがやってきて、高知の独特の食文化や土産品などの取材もされていました。「高知」という県の世界への知名度も次第に高まってきているようです。

その海外の観光客のみなさんも思わず“ウナル”のが、



香港や台湾からの観光客も大絶賛“高知で獲れた魚の刺身”高知のグルメ

高知の新鮮な食材で作られた“高知の究極のグルメ”です。最近では、香港からの観光客と台湾からの観光客のみなさんが、地元の人が食べるような飲食店で、お刺身を食べて最高の笑顔で至福のひとつときを過ごされています。今年の高知日本香港協会で開催された春節イベントの中での相談会でも、高知の地元の食品や日本酒に注目が集まっているという話も出るくらいだったので、この高知のグルメは益々注目を集めていくことだろう、と私たちも期待を持っています。

そのような中、高知では今年も10月3日に“土佐の日”というイベントが開催されます。実は、今年で10回目を迎える記念すべき年で、これまで以上に実行委員会が入力が入っているようです。今年のテーマは「高知の口福！」高知のグルメを集めて、極まる味の饗宴を楽しもう♪という、高知ならではの幸せが体感できるプログラムです。高知県内のあらゆるグルメが10月3日に集まり、国内にも海外にもファンの多い18銘柄の日本酒も集まる1日になります。飛龍をご覧の方で、ご興味のある方は、高知日本香港協会へお問い合わせください。

10月3日は、飲んで、食べて、幸せを感じて、グルメとお酒と人が集まる場所で、高知の食材やお酒を香港へ、世界へと展開する仲間を集めていきたいと存じます。



本場！高知の伝統グルメ“鰹の藁焼きタタキ”香港からの旅行客も太鼓判！！



2016年“土佐の日”の風景。2017年は海外展開する仲間を集めていきます



これまで、これからも、ありがとうございます

**THE PENINSULA**  
T O K Y O

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-8-1 TEL: 03 6270 2888 E-MAIL: PTK@PENINSULA.COM  
Hong Kong • Shanghai • Tokyo • Beijing • New York • Chicago • Beverly Hills • Paris • Bangkok • Manila • [peninsula.com](http://peninsula.com)